



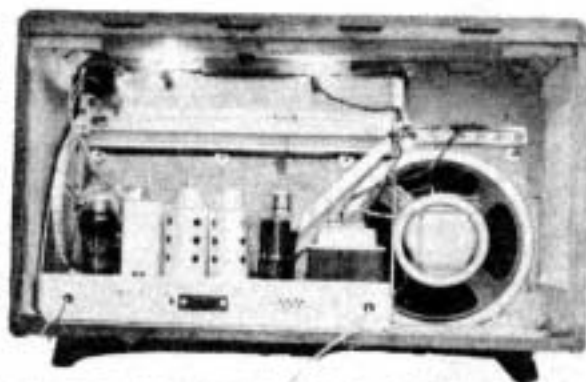
ナショナル "CF-610" 型

大口徑 Sp 付 Hi-Fi 用

一般のラジオは選択度本位に設計してありますから、高音部の減衰が大きいです。巧くしたもので低音部の減衰も少ないですから、音として比較的バランスが取れているため聞き易いのです。しかし最近流行の Hi-Fi ラジオになると高音域が広くなりますから、此例して低音域も上げると音が悪いバランスが得られます。

家庭用のラジオは全体の大きさに制約を受けますから低音部を出したいと言っても極端にキャパシットを大きくすることもできませんので、せいぜい 10 吋の大型スピーカーを使うようになります。大型のスピーカーは小型のスピーカーに比べて感度が良いですから、同じパワーを出しても大きな音が得られ無難もかきりませんから作り手合が良いのです。

8 インチのスピーカーを使い、音質調整は 4 段の切換となり前面左上のランプがつくようになっていすなわち、①低音強調、②全音域再生、③中低音域、④中音域となる。キャパシット寸法は 530×252×243(mm) 近く 10 インチのものもあるらしい。



これも同じく 8 インチ・スピーカーの 6 球スーパーである。DX とローカルの切換がついて、音質は 3 段切換がついている。整流にはセレンを使い、マジックアイはダブルダイオードタイプである。キャパシットは磁材で、寸法は 520×278×218(mm) である。



オンキョー "OS-73" 型

1956年の

これからのラジオは紙に聴こえるというだけでなく、扱いやすく工夫されたものや、音質の改善を計ったものに代りつつあります。事実、最近ラジオメーカーから発売されるものの中には、各部に独特の考案をこらしたものが多くあります。

これらのラジオの中には用途によって非常に便利に使えるものもありますから、新しくラジオを購入したり製作する場合や、古いラジオを使いやすく改良する場合の参考になるものも多いので、その代表的なものを挙げてみました。

電話ラジオ

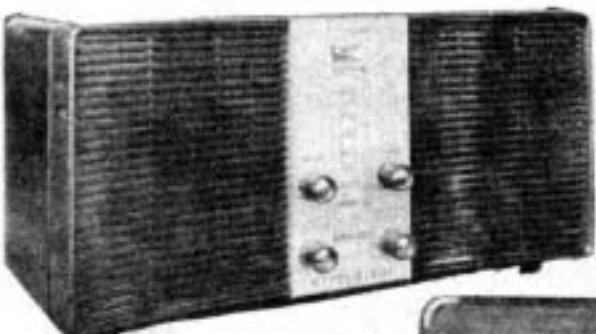
もう一つとして思ひ考案というものはどこにもあるもので屋内電話に使用する表電式電話機はアイアンが不要なのでこの場所を利用して小型スピーカーを同装させ、電話の用事のない時はラジオを聞くようにしたのがラジオ付電話機で、正しく云えばスピーカー付電話機である。

構造別には下記の通りで 2 種に分けるようになっていてスピーカーはアリスアルミインチを使用し、スーパーは 4 号電磁鉄と同色のプラスチック製とし中央にスイッチを嵌付けてある。なお両者の穴をあけ声の出易いようになし電話機ケースにはめ込んである。このカバーとスピーカーを 2 本のビスでケースを閉じこめて固定してある。

このようなラジオ付電話機の特長はアリスアルミであるから何個プラグしても音質が安んず、高ラジオの出力も問題にしないで良い。

ここで注意しておきたい事はラジオが電話通話に誘導、電話しないようにするための新ランプのところを電流トランスを使用し、1/4 W ロックアップすること、配線工事に際し電話線と音声平行配線しないよう注意することである。

又電話用の電話機と同様に電話する普通の屋内電話機 (P、H、X) の電話機に用いける事は電話機が切れたときに注意を要します。もし 2 月 1 日から発売されている型別で同様に電話する特殊機 (P、H、X) に使用する場合は注意を要します。



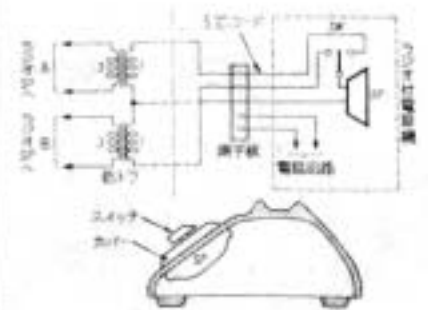
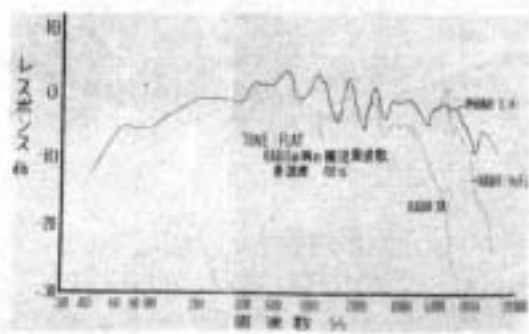
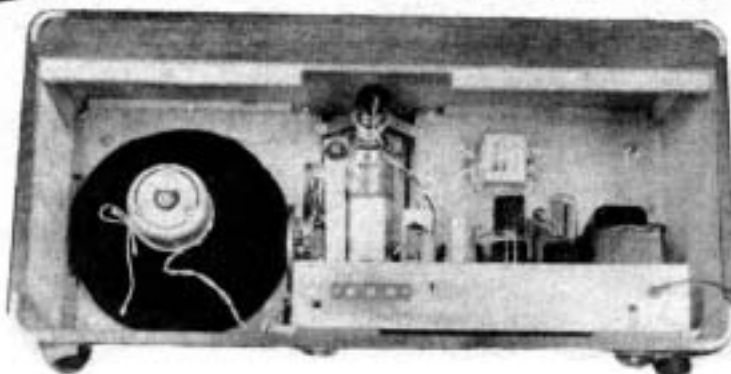
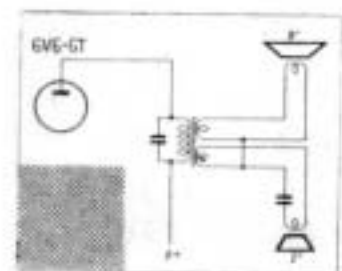
2 ウェイ Sp のラジオ

国産としては珍しい 2 ウェイラジオが最近三菱電機から HF-73 型として市場に流れ始めた。ラジオの Hi-Fi 化はオーディオ界の流行も取り入れ、低音、中音域専門として 8 インチ、高音域専用として 2 インチのスピーカーを取付け音圧増強を分離させてある。音質の調整はフィードバック回路の 5 段切換により選択されている。

三菱 "HF-73" 型

同軸はよく実った点はないが 1 F 音域は DX 用と Hi-Fi 用の 2 段に切換えてある。音質的感度は部の上になっている。キャパシットは磁材型ともいふべき選りだしたもので前面のパネルは内装を画しているのは外観以外に音質効果ももたらしているのだから。

性能	受音方式	マジックアイ付 5 球スーパー
	受信周波数	535-1695 kc
	中間増幅数	4 段 4 級
	出力	最大 3.5 W, 連続 3.0 W
	感度	標準 電圧 100 μV
	消費電力	60 VA
	使用真空管	6BE6, 6BD6, 6AV6, 6V6-GT, 5Y3-GT, 6Z5



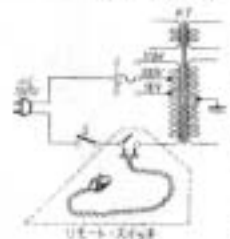
ラジオは……

幕城切替式ラジオ

一般のラジオは日本中どこへ持っていっても使えるように電圧や周波数を高く設計してありますが、富貴の方は別ですが、電気の弱い地方では分離の良いラジオでないといふ理由や外米雑音が多くて困りますが、放送局に近いところは電圧が高いですから、ラジオの音域を広げてしまっても受信や外米雑音の増えら心配が少ないので、幕城切替付きにすれば受信状態に応じてバンド巾を広くも狭くもできますから、良い選択度と良い忠実度の二つが掛けられるわけです。

ラジオ・メーカーの幕城切替付きのラジオは、アマチュア・ラジオのように15,000Hzまでアンプに出る等というのではなく、且つせいぜい7000-8000Hz止りで、このラジオは図のようになっていて、あまりバンドの広いラジオを売出して以降後局の受信やビート妨害、外米雑音の増加のため、販売上種々のトラブルが出て、キャンセルやクレームを受けて困るため、幕城切替付きのラジオといっても十分広いバンドを取れないのが現状のようです。

リモート・スイッチ付きラジオ

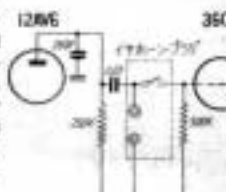


本稿は修理に入つたままでラジオを聴く機会が多いですが、どうもスイッチを切るのがおっくうになってしまいます。この場合、電源がリモート・スイッチ付きになっていれば、ラジオから離れたところで電源のON、OFFができて大変便利です。構造は案外簡単で、図のように電源1次回路の一端にこのスイッチが入るのですから、スイッチのコードを長くしてお

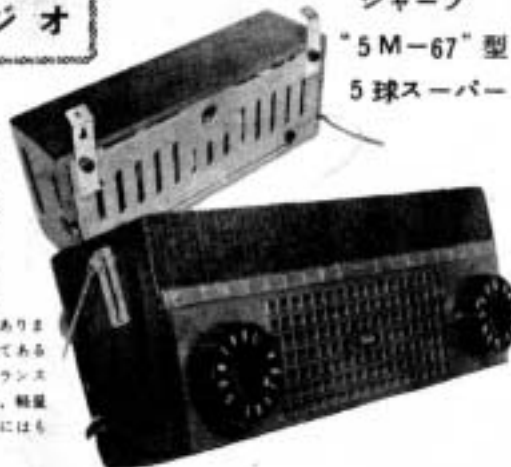
けば、10mや20mの先からでも電源の操作ができます。このスイッチが不要のときは、スイッチ後部にあるリモートスイッチの差し込みプラグを外せば、普通のラジオと全く同様に使えます。このスイッチは別名を不触スイッチとも呼ばれています。

いまの学生層の中にはラジオを聞きながら勉強をする途中が多いようで、塾生女子も子煩悩でしょう。しかし彼等の親御さんの身になってみれば、子供の勉強中は静かにしてやりたいのが人情です。また一つの屋根の下に両方の世界が同居している場合や、病院に入院している者は隣の人に迷惑にならないように気を使います。こういう要望で生れたのがイヤホン付きのラジオで、イヤホンで聞いているれば深夜放送でも他人に迷惑が掛りません。

イヤホンは図のように、電圧増幅管の出力端子に入りますが、ボータブル・ラジオ用のイヤホン・プラグを下のシャシ一面に取りつけておくのが便利です。イヤホンはクリスタル・ヘッドホンがインピーダンスも高いし、音質も比較的良いですから選んでいます。しかし日電源にハムが多いと耳障りになりますから、ハムは十分に少なくした方が良いでしょう。



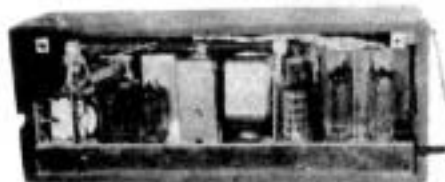
壁掛ラジオ



シャープ
"5M-67"型
5球スーパー

ラジオを壁時計のように壁に掛けるようにすれば高いところに、わざわざ棚を作る必要もなく、空間を有効に使えますから、我が家でも広く使えます。

壁掛ラジオといっても、壁に掛ける金具が付いている以外普通のラジオと特に変わったところがありませんが、小型でなるべく軽く作ってあるのがミソで、その点でMT管のトランスレシにすれば、ラジオ全体が小型、軽量にできますから、この種のラジオにはも



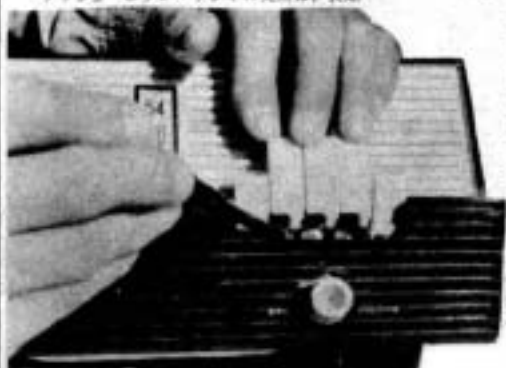
ってこいです。アンテナはコア・アンテナを使用しておりまして、ラジオの場所を移動させる際にも手数が掛りません。電源スイッチはプールのスイッチで、紐を付けておけば電源のON、OFFの場合に一々立ち上げる必要もなく、使ったままで用が足せます。

ピアノ式押ボタン



イヤホンつきラジオ

マツダの
"5BM-50"型



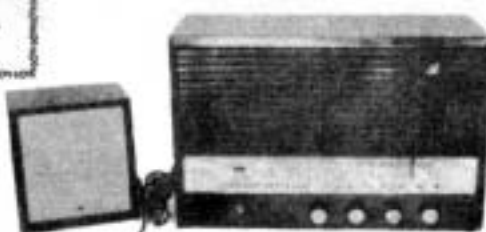
近年は人間が一般にセツカチになってきていますのでアイヤルを離れて一々希望の放送局をさがすのが面倒がられます。また夜間は遠方の放送局の電波が強いですから、気が付いて同調を取らないと全く別の放送局にダイヤルを合せている場合があります。そういう点でプッシュボタン同調のラジオは同調が全くスピーディーで遠隔の誤りが少ないため一般に評判がなっています。

プッシュボタン・ラジオの欠点は、長期

間使用していると調整に任せて音が全く出てこなくなったり、接点の接触不良を起したりしたことです。最近は何方回位開閉しても接点に異状のない良いプッシュボタン・スイッチも製作されるようになり、またこのラジオのように、調整の紐をだれにも直せるようになったものがありますから、どこへ持っていってもそこでそのロケル同の周波数に定まらねます。プッシュボタンは前後に押すものよりも上下に押すピアノ式のものが力の安定が得られることはもちろんです。

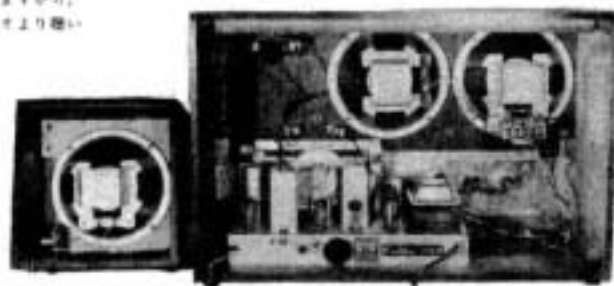
親子ラジオ

ビクター "R-604"型



ラジオは一家に一台時代をといわれていますが、同一プロで我々である家庭では、おどろきまのラジオをそろえなくてもこの親子ラジオで十分です。例えば主人の部屋に親ラジオを置いて、女中さんの室に子スピーカーを置くという風に使います。この親子ラジオは、5.5吋のスピーカーが2個取り付けられていますから、一般のスピーカーのラジオより聴いた感じがずっと豊かになります。またこの子スピーカーを同じ電圧で同時に鳴らすと3つのスピーカーが鳴り出しますから、H・Dと行かないまでも聴感に良い音でラジオを楽しめます。子スピー

カーは必要に応じてかなり配線を飛ばしても音が小さくならず、特性の悪くなる心配がありません。専用のゲームが付いているから自由に音量を加減することが可能です。他にリポート・スイッチがあり、イヤホンも使えるようになっている。



(親子ラジオには6.5インチSPが2本ついている。)

クロック・ラジオ



以前は時計をラジオに近づけないように十分注意したのですが、この常識を破って生れたのが時計つきラジオです。ただ時計をラジオに組みこんだだけでは聴かない話ですが、このラジオの良いところは時刻に合わせて電源スイッチをON、OFFできることです。ですからラジオを日常交代りに使うこともできます。日

ナショナルの "BL46" "5X-50"型
(E) (F)



ゼネラルの "6CS-2"型

と聞いてもベルが鳴り出すわけではなく、ラジオの音で目を覚ますのですから、目覚まし時間未放送開始前に合せておいても、放送が始まるまでは音通こしてしまいますから注意して下さい。また目覚めの針は合せる時間から約10時間以内でないとは通しませんから、10時間以上の睡眠を取る人の目覚ましにはなりません。時計の電源は乾電池ですから、一般の電気時計のように電源の周波数変動による時間の狂いはありません。電池の消耗は大変少なく、特等2個で約半年も持つそうです。